

# 相模川の洪水浸水対策に係る タイムラインの策定について



茅ヶ崎市 市民安全部 防災対策課



# タイムライン策定の背景

これまでの想定を超える浸水被害が多発していることを踏まえ、避難体制等の充実・強化を図るため、水防法を改正

- 茨城県常総市



平成27年9月 関東・東北豪雨  
死者（8名）、負傷者（79名）  
約4,300人がヘリにより救出  
総雨量（2日間、日光市）551mm





# タイムライン策定の背景

水害発災時期	災害名	降雨観測地点	降雨量
平成29年7月	平成29年7月九州北部豪雨	福岡県朝倉市	586.0mm(48時間雨量)
平成29年6月	長崎県豪雨	長崎県壱岐市	434.0mm(48時間雨量)
平成28年8月	台風10号東北・北海道豪雨	北海道上士幌町	270.0mm(48時間雨量)
平成27年9月	台風18号関東東北豪雨	栃木県日光市	551.0mm(24時間雨量)
平成26年8月	平成26年8月豪雨(広島土砂災害)	広島県広島市高瀬	247mm(24時間雨量)
平成25年10月	台風26号伊豆大島土砂災害	東京都大島町	824mm(48時間雨量)
平成24年7月	平成24年7月九州北部豪雨	福岡県八女市	534.5mm(48時間雨量)
平成23年9月	台風12号紀伊半島大水害	三重県御浜町	899.0mm(48時間雨量)
平成23年7月	平成23年7月新潟・福島豪雨	福島県只見町	670.0mm(48時間雨量)



# タイムライン策定の背景

- **計画規模降雨**による洪水が発生することを前提とした対策



水防法の一部改正(平成27年)

- **想定し得る最大規模**の降雨による洪水が発生することを前提とした対策



- 洪水浸水想定が計画規模から想定最大規模に  
→【相模川】2日間雨量  
計画規模459mmから想定最大規模567mmに

# 相模川水系相模川洪水浸水想定区域図(想定最大規模)

## 市域の1/4が浸水域

### 凡例

浸水した場合に予想される水深  
(ランク別)

- 0.0~0.5m未満の区間
- 0.5~3.0m未満の区間
- 3.0~5.0m未満の区間
- 5.0~10.0m未満の区間
- 10.0~20.0m未満の区間
- 20.0m以上の区間

浸水想定区域の指定の  
対象となる洪水予報河川

市町村界

浸水区域内(推計値)

世帯数 : 23,800世帯

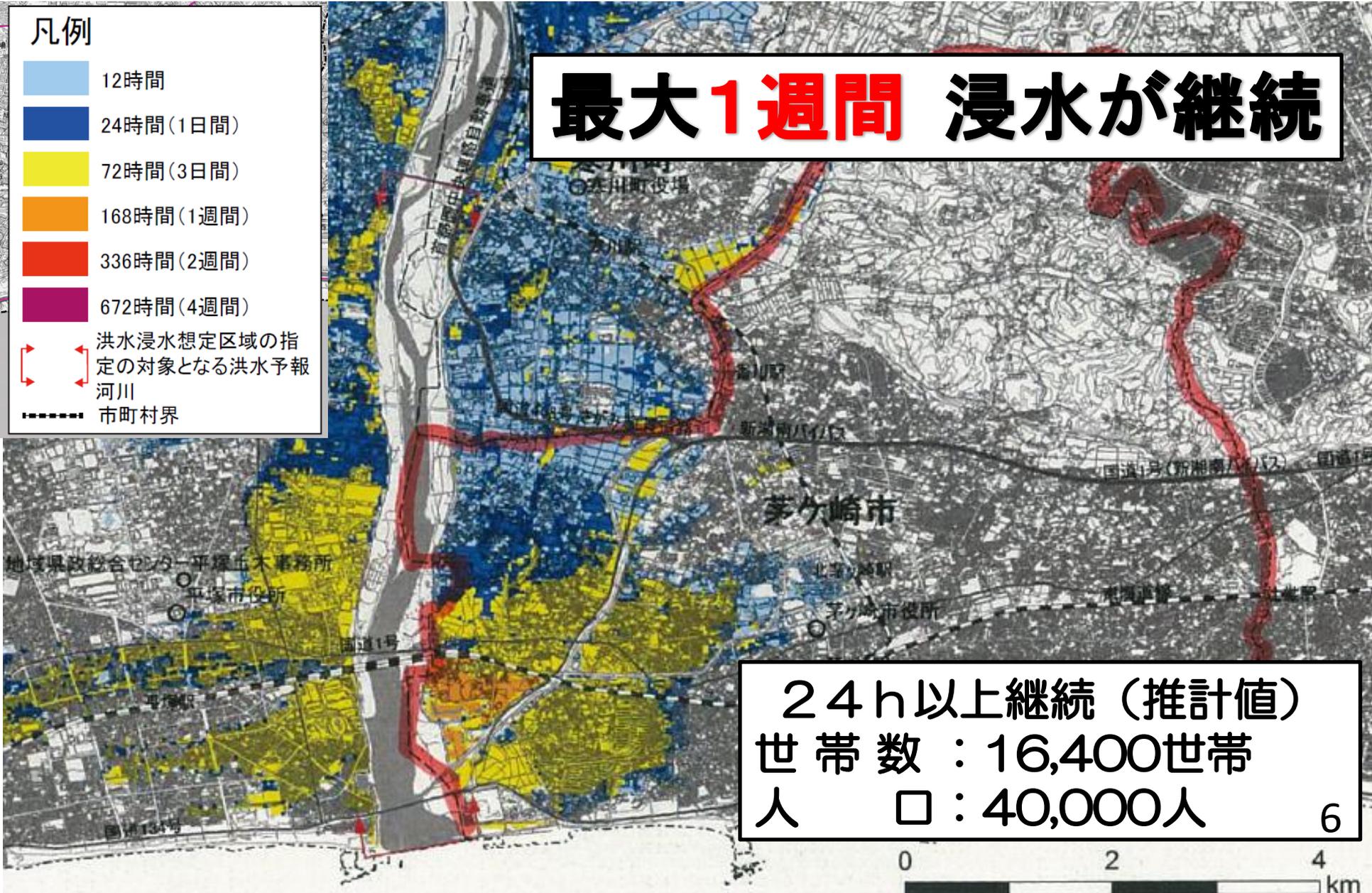
人口 : 58,600人

要支援者 : 2,700人

# 相模川水系相模川洪水浸水想定区域図(浸水継続時間)

- 凡例
- 12時間
  - 24時間(1日間)
  - 72時間(3日間)
  - 168時間(1週間)
  - 336時間(2週間)
  - 672時間(4週間)
  - 洪水浸水想定区域の指定の対象となる洪水予報河川
  - 市町村界

**最大1週間 浸水が継続**



24h以上継続(推計値)  
世帯数: 16,400世帯  
人 □: 40,000人



- 浸水想定区域内には、約58,000名が居住



- 浸水想定区域外へ立退き避難が必要な人  
→そこに留まっては命に危険が及ぶ可能性がある人

⇒ ①家の全居室が水没してしまう人

⇒ ②浸水継続時間が72時間以上の場所に居住している人

⇒ ③川の氾濫によって家が流されてしまうおそれのある人



**6,300名（内、避難行動要支援者数は約2,800名）**



- 浸水想定区域内には、様々な施設が所在



- ①公共施設39（小中学校、消防分団器具置場、環境事業センター）
- ②医療機関16
- ③要配慮者施設27（高齢者や障害者施設、保育園等）



例えば、

中島にある特別養護老人ホームは、想定浸水深0.5m～3.0m

**継続時間72h～168h(1週間)**

→要配慮者をどのように、安全な場所に避難してもらうのか。

→避難先の確保はどうするのか。



## タイムラインの趣旨について

- 立退き避難対象者数6,300名  
→どのように浸水想定区域外に避難をさせるのか。
- 公共施設、医療機関、要配慮者施設などの利用者・従業員等はどのように避難させるのか。

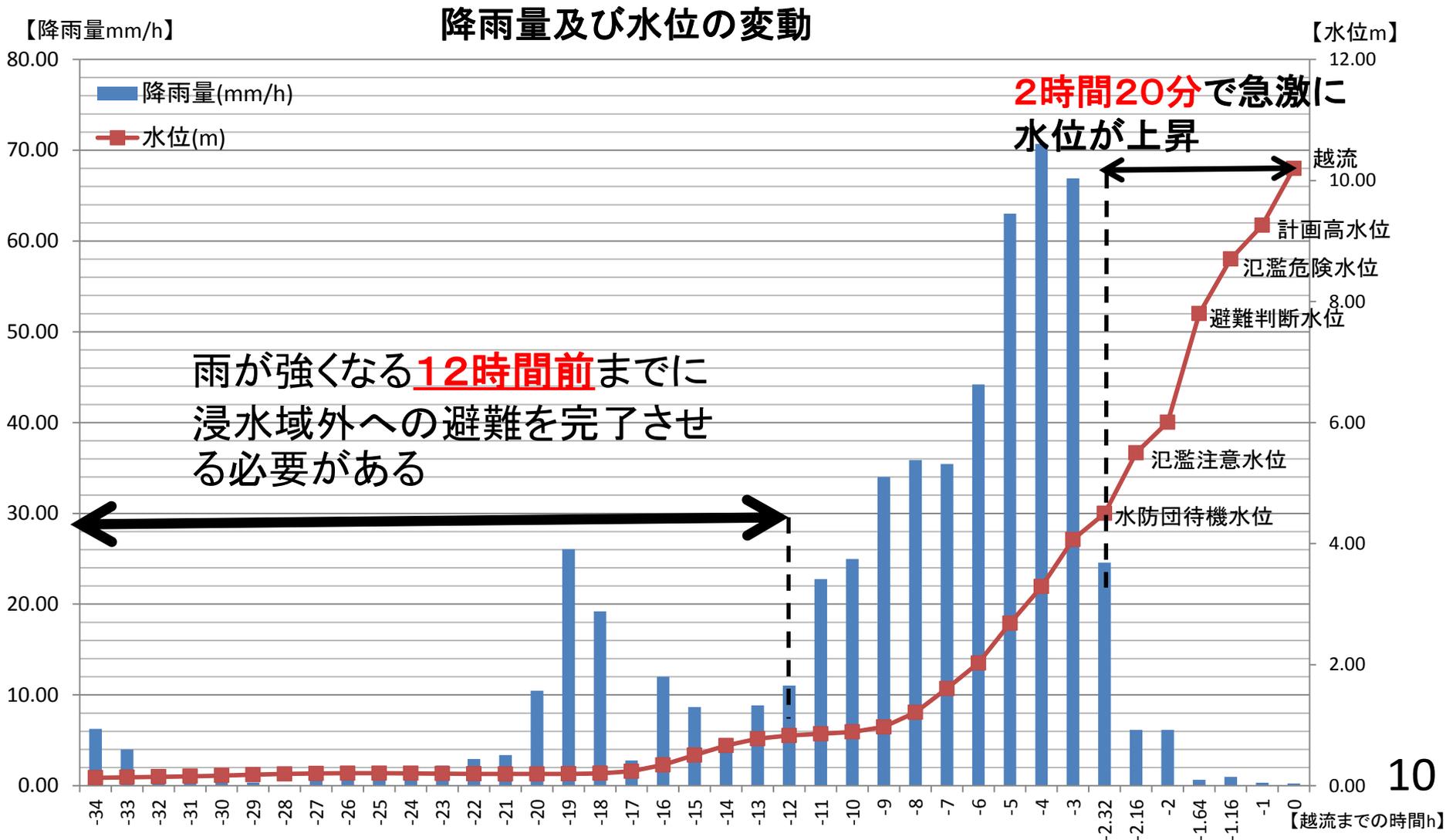
**「逃げ遅れゼロ」を目指す取組が必要**

### 【タイムラインの策定】

災害の発生を前提に防災関係機関が連携して災害時に発生する状況を想定し、共有した上で、「いつ」、「誰が」、「何をするか」に着目して、防災行動とその実施主体を時系列的に整理をする



# 避難行動のタイミングについて





- 想定最大規模の降雨による洪水浸水では水位が急激に上昇するため、水位情報に基づいた避難情報の発令では、住民の逃げ遅れが発生。
- 「逃げ遅れゼロ」を実現させるためには、3日前、2日前、1日前から余裕を持った、避難対策のための防災行動に取り組む必要がある。



防災行動を時間軸で整理したタイムラインの策定



## タイムライン(概略版)について(別紙1)

想定最大規模降雨567mmによる洪水浸水を前提に**避難対策に特化し**  
タイムライン概略版を作成(別紙1参照)

### 【24時間前】

要支援者・要配慮者が立退き避難を開始

(大雨特別警報の可能性、避難準備・高齢者等避難開始発令)

### 【18時間前】

一般住民が立退き避難を開始

(大雨警報等、避難勧告発令)

### 【12時間前】

立退き対象者約6,300名は、浸水想定区域外へ立退き避難を完了

(大雨特別警報、避難指示発令)